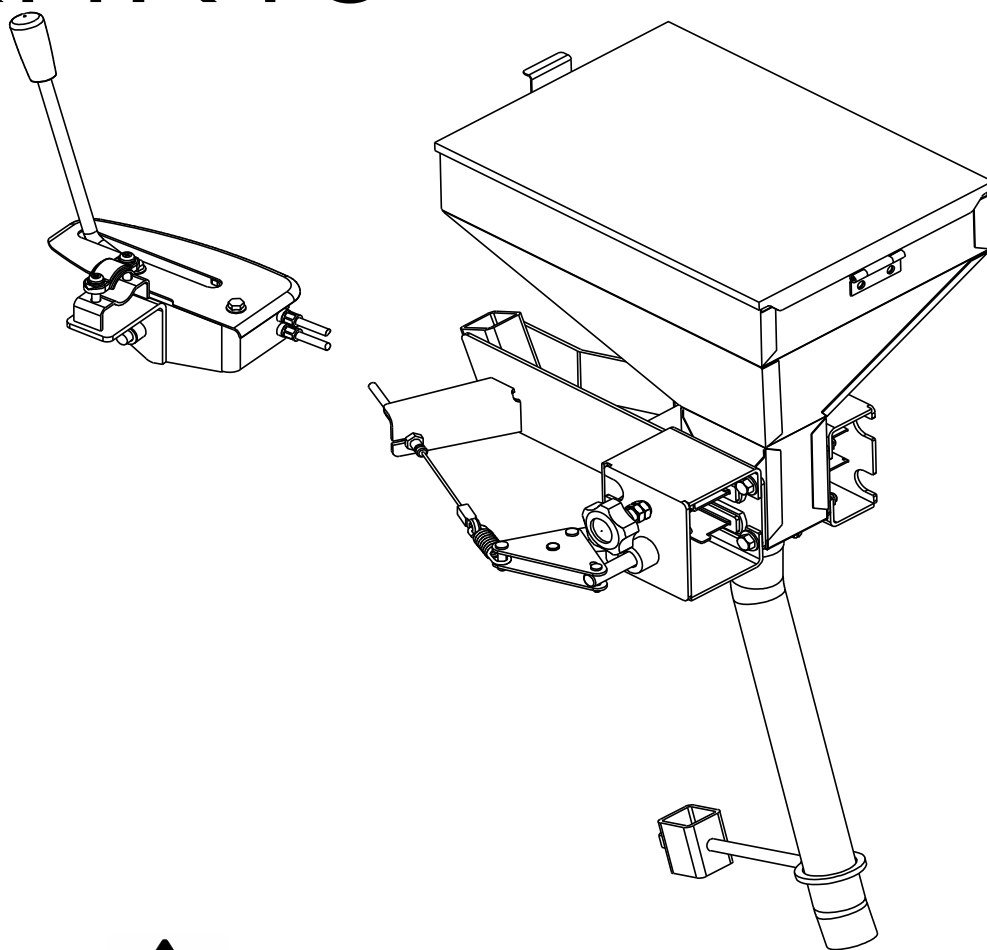


ヘルパー施肥器

取扱説明書

KHK10



当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

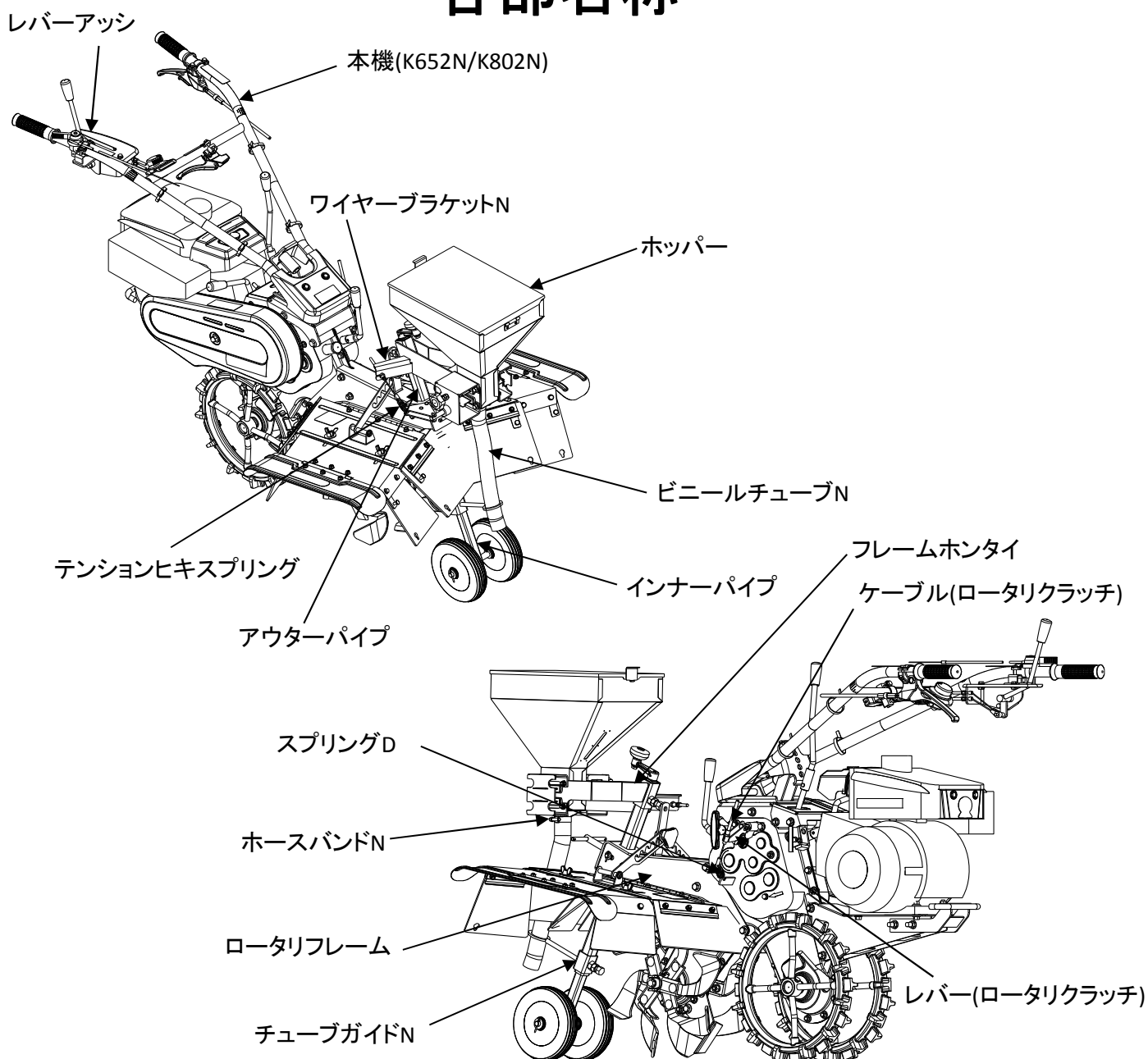
はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

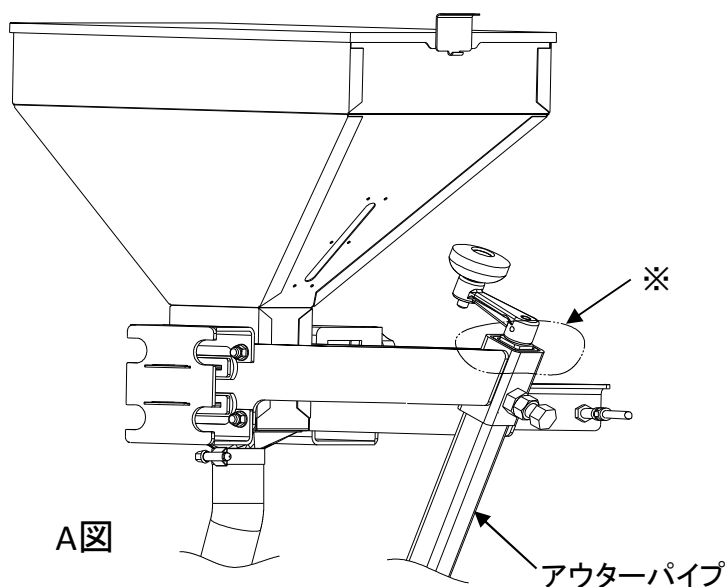
各部名称



目次

1.取付方法	1
2.使用方法	4
3.散布できない肥料	5
4.使用後の手入れ	5
5.補修用部品について	5

取付方法

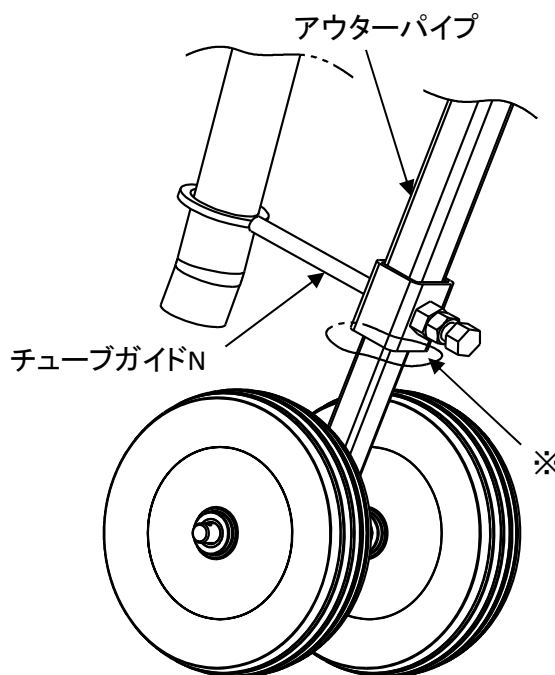


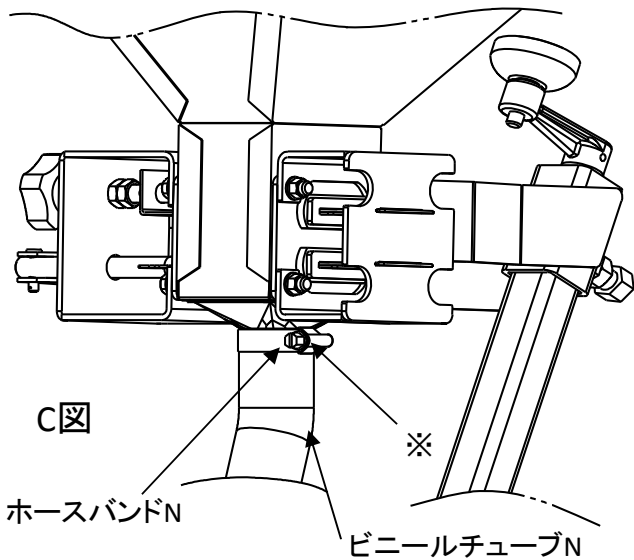
1.アウターパイプからインナーパイプを抜き、その後、ロータリフレームからアウターパイプを抜きます。

2.抜いたアウターパイプをフレームホントイの角パイプに差込み、A図※の様にそれぞれのパイプ上面を合わせ、付属のボルトとナットで固定します。

3.施肥器が取り付けられたアウターパイプをロータリフレームに差込み、ジャッキボルトで固定します。

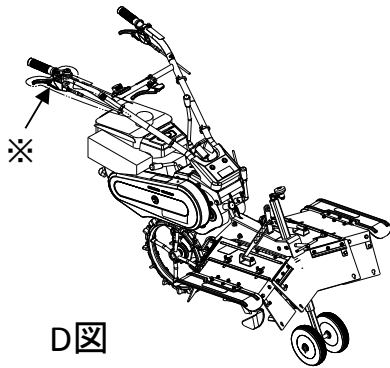
4.アウターパイプ下面と、チューブガイドNの角パイプ下面をB図※の様に合わせ、ボルトとナットで固定します。



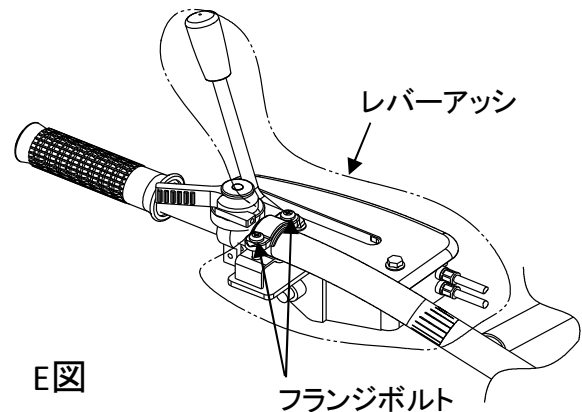


5.ビニールチューブNをC図のように組付け、ホースバンドNで固定します。
 その際、C図※ネジをマイナスドライバーで締め付けます。
 固定が終わったら、ビニールチューブNを使いやすい長さにカットして下さい。

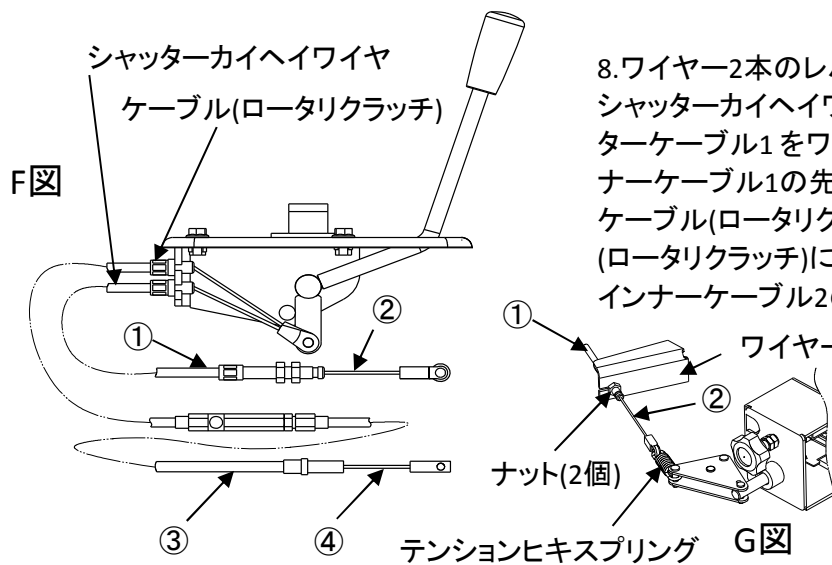
ロータリと施肥の入り切りを同時に行う場合



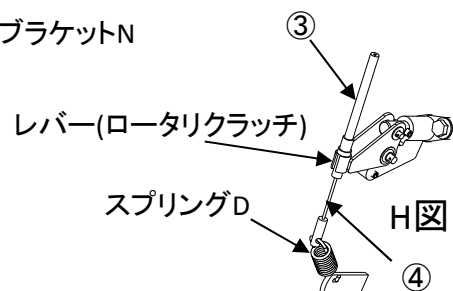
6.D図※のレバーとワイヤーを取り外します。
 このレバーとワイヤーは、ロータリの入り切りを行うものです。



7.E図の位置に付属のレバーアッシを組付けます。
 フランジボルト2本をしっかりと締めて下さい。
 E図はD図※周辺と同位置です。

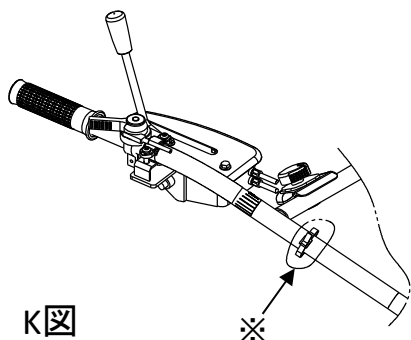
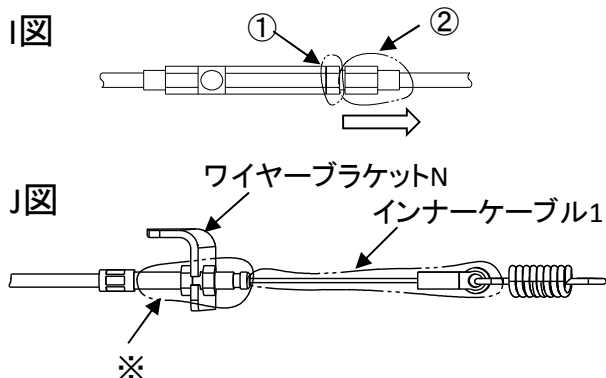


8.ワイヤー2本のレバー側は、F図の通り組付けます。
 シャッターカイヘイワイヤの施肥器側はF図、G図のように①アウターケーブル1をワイヤーブラケットNにナット2個で固定し、②インナーケーブル1の先端はテンションヒキスプリングに取り付けます。
 ケーブル(ロータリクラッチ)の本機側は、F図、H図の通りレバー(ロータリクラッチ)に③アウターケーブル2の先端部を引っ掛け、④インナーケーブル2の先端をスプリングDに取り付けます。



9.ワイヤーの調整

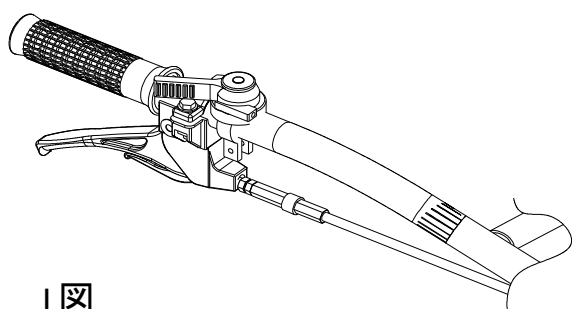
ケーブル(ロータリクラッチ)はI図の部品で調整します。
引き代不足でロータリが回らない場合は、①ナットを緩めた後、②調節ネジを矢印方向へ伸ばして下さい。
ロータリの入り切りが確実にできることを確認した後、最初に緩めた①ナットを締め付けます。
シャッターカイハイワイヤはJ図の部品で調整します。
確実なシャッターの開閉を行う為、インナーケーブル1がしっかりと張った状態で※のナット2個を、ワイヤーブラケットNを挟み込むように締め付けます。



10.付属するインシュロックタイでワイヤー類とハンドルをまとめ、K図※付近で固定して下さい。

ロータリと施肥の入り切りを個別に行う場合

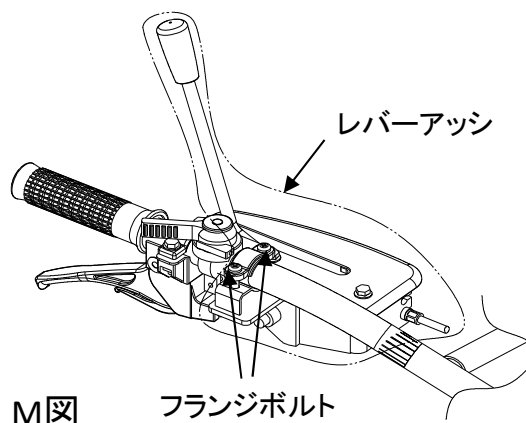
先述の、「ロータリと施肥の入り切りを同時に行う場合」との相違点を主に記載します。



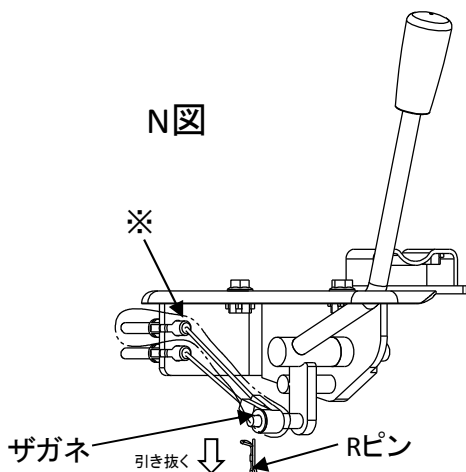
同時に行う場合と違い、L図のレバーとワイヤーはそのまま取り付けておきます。
L図は、D図※付近を拡大したものです。

L図

M図の位置に付属のレバーアッシを組付けます。
フランジボルト2本をしっかりと締めて下さい。
M図はD図※周辺と同位置です。

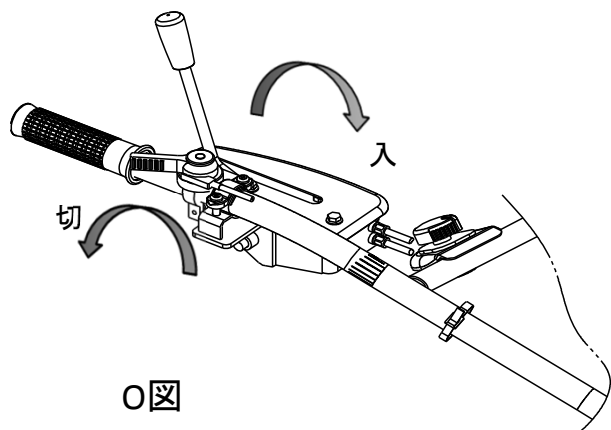


M図



N図レバーアッシ内のRピンを抜き、※ケーブル(ロータリクラッチ)とザガネを取り外します。
取り外しが終わったら、ザガネとRピンを元の位置に取り付けて下さい。
以降は「ロータリと施肥の入り切りを同時に行う場合」と同様です。

使用方法



O図

1.ロータリ、施肥の入り切り

(a)入にする時

O図の通り、レバーを前方(ハンドル側から見て)へ倒すと施肥が始まり、ロータリはクラッチが繋がります。

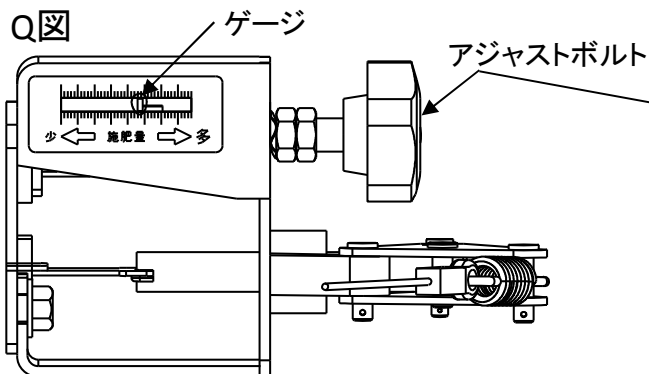
ロータリは左手側のシュクラッチを握ることで動き出すので、レバー操作とシュクラッチを握る動作は時間差無く行うと良いです。2つの操作に時間差ができると、その分だけ、肥料が一箇所に落ちてしまいます。

(b)切にする時

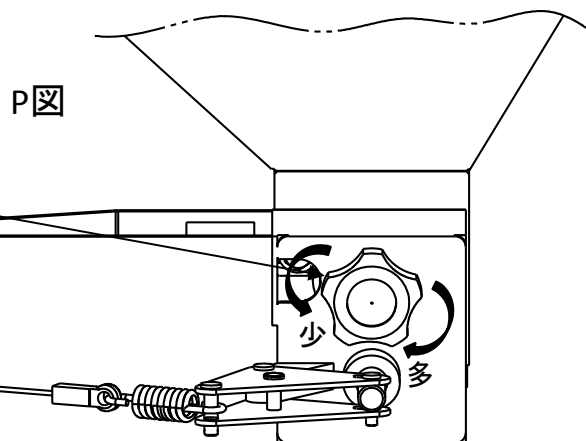
まず、シュクラッチを切ります。その後、O図の通り、レバーを後方(ハンドル側から見て)へ倒すと施肥が止まり、ロータリはクラッチが切れます。

2.施肥量の調整

P図、Q図の通り、アジャストボルトを回すことで施肥量の調整が可能です。



Q図



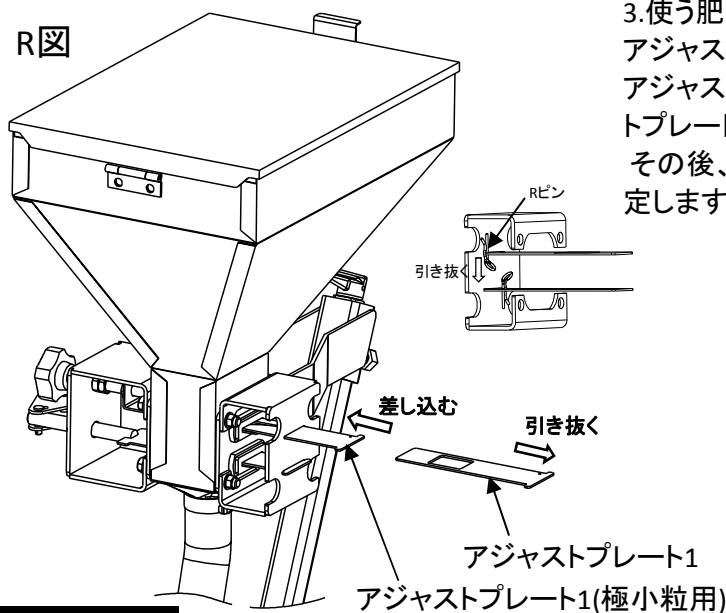
P図

3.使う肥料の径が小さい場合(1mm前後)

アジャストプレート1(極小粒用)に付け替えをします。

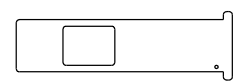
アジャストプレート1に取り付けられているRピンを抜き、アジャストプレート1を左図のように引き抜いて下さい。

その後、アジャストプレート1(極小粒用)を差し込み、Rピンで固定します。(R図、S図参照)

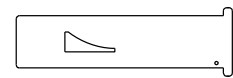


R図

S図



アジャストプレート1



アジャストプレート1(極小粒用)

※アジャストプレート1(極小粒用)は付属しております。

ポイント

当製品は、自然落下式の施肥器の為、肥料の大きさや、作業速度によって施肥量が変化します。お客様にとっての最適な施肥量は、試し撒きで確認をしていただく必要があります。

散布できない肥料

1.吸湿した肥料

湿気を含んでいる肥料は、スムーズに肥料が流れず、詰まりの原因となります。

2.固結した肥料

固結した肥料は、シャッター部につまる可能性が高いです。固結防止の為、使用後の肥料は、確実にホッパーから取り除いて下さい。

3.粒径5mm以上の肥料

粒径が5mm以上になると、シャッター部での肥料の流れが悪くなり、詰まりが発生する可能性が高いです。

4.粉状の肥料

粉状の肥料はホッパーの小さな隙間から肥料がこぼれる可能性があります。

使用後の手入れ

1.ホッパー内の肥料を取り除く。

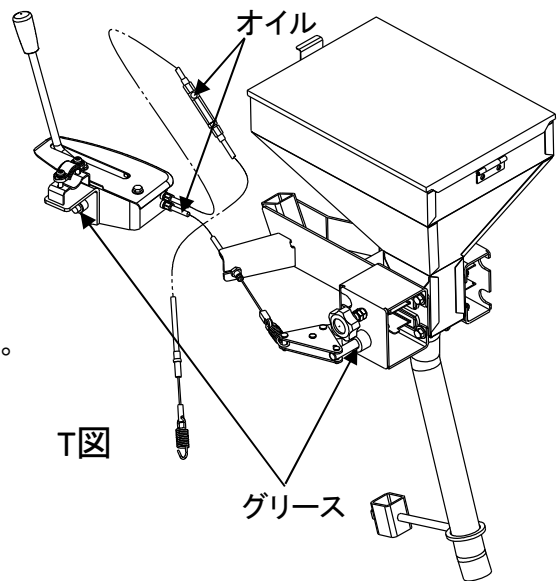
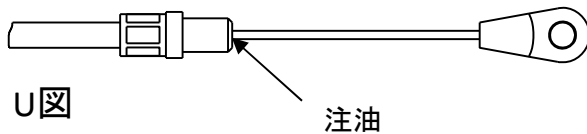
ホッパー内に肥料を入れたまま長期間放置してしまうと、肥料が固結し、詰まりの原因となります。

2.シャッター部に残った細かい肥料カスを取り除く。

アジャストプレートを取り外し、プレート間に挟まっている肥料カスをしっかりと取り除いて下さい。プレート間の肥料を放置してしまうと、再度使用の際、シャッター部の動きが悪くなる恐れがあります。

3.T図の指示部に定期的にグリースを塗り、オイルを注す。

シャッターカイハイワイヤには注油口が無いので、U図のようにアウターケーブルの端から注油して下さい。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等で相談させて頂く場合もございます。

補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給の要請をいただいた際には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もございます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因となります。

品番 308500000506000

製品のご相談は下記の販売店へ



関東農機株式会社

本社工場/本社営業所 〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場/福島営業所 〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場/東北営業所 〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所 〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760